

地域社会学会会報

No.226 2022.4.10

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒020-0693 滝沢市巣子 152-52 岩手県立大学総合政策学部
吉野英岐研究室内

TEL 019-694-2724(直) FAX 019-694-2701 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

◆…………… 〈 会報 226 号のトピック 〉 ……………◆

- 1) 理事選挙の投票と新年度の会費納入をお願いします。詳細は 8 ページをご覧ください。
- 2) 第 4 回研究例会の報告論文および批評論文（旧印象記）は、別途発行の「地域社会学会ジャーナル」No.5（WEB 版）に掲載されます。
- 3) 会員の研究成果について、引き続き、2020 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 WEB サイトから MS ワード版がダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメール（あるいはファックス）でお送りください。

目 次

1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告
4. 社会学系コンソーシアム担当からの報告
5. 地域社会学会賞選考委員会からの報告
6. 事務局からの報告
7. 第 15 回（2021 年度）地域社会学会賞の選考経過と受賞作の発表、各講評と受賞者の言葉
8. 事務局からのお知らせとお願い
9. 会員異動
10. 会員の研究成果情報
11. 理事会のご案内

地域社会学会第 47 回大会ご案内

日時 2022 年 5 月 14 日（土）～5 月 15 日（日）

方式 ZOOM によるオンライン開催（※プログラム・報告要旨は次号会報に掲載します）

※アクセス方法等は、開催 1 週間前程度をめどに、会員メーリングリストで配信します。

新年度でメールアドレスが変更になった会員は新アドレスの届け出をお願いします。

1. 理事会からの報告

2021年度地域社会学会第3回理事会は、2022年2月5日（土）10時から12時まで、オンラインで開催されました。ここでは報告事項として6件、審議事項として7件が議論されました。出席理事（18名）：浅野慎一、鯨坂学、伊藤亜都子、大倉健宏、小内透、清水亮、高木竜輔、田中里美、玉野和志、中澤秀雄、二階堂裕子、速水聖子、藤井和佐、丸山真央、室井研二、文貞實、矢部拓也、吉野英岐
オブザーバー参加（次期大会開催校）：新藤慶
欠席：木田勇輔、徳田剛

前回理事会（12月4日）議事録案確認
報告事項

1. 研究委員会
2. 編集委員会
3. 国際交流委員会・ISA-RC21 担当
4. 社会学系コンソーシアム担当
5. 地域社会学会賞担当
6. 事務局報告
 - ・会費納入状況
 - ・会報 225 号の発行
 - ・ジャーナル No. 4 の発行

審議事項

1. 会員異動（入会・退会）について
2. 会則 6 条規定による会員資格の喪失について
3. 次回大会の開催方法について
4. 次回理事選挙の方法について
5. WEB 版会報の掲載方法について
6. 40 周年記念基金の扱いについて
7. その他

報告事項のうち、研究委員会、編集委員会、社会学系コンソーシアム担当、事務局からの報告の詳細は各委員会報告・事務局報告をご覧ください。なお、国際交流委員会・ISA-RC21 担当から ISA-RC21 のアブストラクトの締め切りが 2 月 11 日なので、事務局から会員 ML で周知を図るようにしてほしいという報告がありました。この件はすでに会員 ML で周知済みです。

審議事項

1. 会員異動（入会・退会）について

入会については、審議の結果、景山佳代子（神戸女学院大学）、高崎浩平（九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻博士後期課程）、片桐勇人（日本学術振興会 DC1）の 3 名の入会が認められました。

退会については、審議の結果、佐野淳也会員（大阪成蹊大学経営学部公共政策コース）、竹内隆夫会員（立命館大学）の退会が認められました。また交野正芳会員（愛知大学）については、改めて意思を確認し、退会の確認がとれた時点で退会を承認することとしました。

2. 会則 6 条規定による会員資格の喪失について

審議の結果、会則 6 条の規定により会費を 3 年以上滞納している 2 名に対して、今後 2 週間以内に会費の納入がない場合は、会員資格を喪失することが決まりました。

3. 次回大会の開催方法について

次回大会開催校の担当の新藤慶会員（理事会にオブザーバー参加）より、資料に基づいて、群馬大学の状況が報告されました。新型コロナウイルスの感染拡大により、群馬大学の警戒レベルがあがっていること、授業がオンラインとなり、現時点では学生は自由に学内に登校することが困難であること、今後の情勢は不透明で、対面開催を決めても、その後に感染拡大があった場合、大会運営補助の学生の確保が難しいことなどが報告されました。

これをうけて事務局からオンライン開催の提案があり、審議の結果、オンライン開催とすることが決まりました。日程は当初予定の期日通り 5 月 14 日～15 日で開催する方向になりました。参加費は事務手続きの煩雑さを回避するために、会員は無料とし、非会員は事前申し込があった場合に有料で対応することとしました（前回のオンライン大会と同様です）。

なお、実施に当たり開催校・研究委員会・事務局で緊密な連携体制を構築することも認められました。

4. 次回理事選挙のタイミング・方法

事務局より、地域社会学会理事選挙の実施要領（内規）を提示したうえで、理事選挙について以下の提案がなされました。

- ①理事選挙は大会前に投票用紙を使って郵送配布・郵送回収で実施したい。
- ②選挙の実施に当たり選挙管理委員会を組織する。選挙管理委員会は 3 名の会員で構成され、これまで事務局で打診し、理事会で承認を受けるかたちで行ってきた。今回も事務局で予め打診し、現時点では木田勇輔理事、丹邊宜彦会員、谷口功会員を予定している。
- ③選挙の実施は現在作成中の会員名簿の完成・発送に合わせて、4 月 1 日として、7 名連記の投票用紙と返信用封筒を会員に郵送する。外側の封用の発信元は吉野庶務担当理事として、投票用紙の返送先は選挙管理委員の木田理事とする。4 月 15 日（予定）に投票を締め切り、4 月末日までに選挙管理委員会が開票し、その結果を事務局に伝え、事務局は総会で開示する。
- ④開票の結果、上位得票数の 10 名を理事に選出し、10 名に就任の確認をとる。その後、10 名で会長選出について協議する。

選挙管理委員の人選はこれまでの慣例では、被選挙権のない理事が就任することになっているという指摘がありましたが、事務局としては、今回の人選はコロナ禍の下での選挙であることから、3 人の選挙管理委員が近接していて対面での作業が可能であることを重視したことによるものであるという事情が説明されました。その後、種々議論の結果、上記の事務局案が理事会で承認されました。今後は会則の改正のために臨時総会を開催するのではなく、会員 ML に郵送方式の投票による理事選挙を行うことを早めに通知し同意を得ることとしました。

5. WEB 版会報の掲載方法について

会報の開示区分（一般・会員）の撤廃の提案が事務局から提案されましたが、協議する時間がなかったため、今期は従来通りに掲載し、次回の理事会で改めて協議し、変更する場合は次年度から行うこととしました。

6. 40 周年記念基金の扱いについて

40 周年記念基金の郵便局の口座の改廃を一度行うと、再度開設することが困難になる場合があることから、当面の使途予定はありませんが、口座は継続して保持することが事務局より提案され了承されました。

（吉野英岐）

2. 研究委員会からの報告

2 月 4 日に第 4 回研究委員会を Zoom で開催し、第 47 回大会シンポジウムの企画について議論しました。テーマは「コロナ禍における「移動」と地域社会」とし、報告者は、解題を含めて社会学理論の観点から徳田剛・研究委員会副委員長（大谷大学）、国内移動や移住・「関係人口」に

関して田中輝美氏（非会員、島根県立大学）、国際移動や外国人労働者の地域社会との関係等について二階堂裕子会員（ノートルダム清心女子大学）に、それぞれ依頼し、内諾を得たことが報告されました。また討論者は、中澤秀雄会員（中央大学）、陸麗君会員（福岡県立大学）に依頼し、こちらにも内諾をいただきました。司会は研究委員の原田峻会員（立教大学）と丸山が務めます。以上について、その後理事会でも承認されました。

このほか、現在編集中の年報に関する情報共有や、大会に向けた準備等について意見交換をおこないました。

第4回研究委員会の出席者は以下のとおりです（敬称略）。鯨坂学、徳田剛、二階堂裕子、速水聖子、丸山真央、文貞實、小山弘美、原田峻、山口博史。

（丸山真央）

3. 編集委員会からの報告

今年度4回目の編集委員会を1月30日にオンラインで開催し、地域社会学会年報第34集の編集について審議しました（委員8名全員出席）。まず、自由投稿論文の査読結果に基づき、掲載の可否について検討、決定しました。まだ査読中の論文もありますが、お忙しい中、査読の労をとって頂いた先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。また、特集論文や書評等の進捗状況について確認を行いました。第34集の特集は、シンポジウム「パンデミックと都市・地域—新型コロナ禍の中で地域社会学は何を問うのか」と研究委員会企画「東日本大震災10年と地域社会学」の2本立てになる予定です。また、年報のタイトルはシンポジウムのタイトルとすることを決定しました。その他、自由投稿論文のマスクングの仕方や評価割れの際の審査手順等について確認、審議しました。

年報34集は例年通り5月の大会開催時期に刊行される予定です。大会がオンライン開催に決まったこともあり、次年度の学会費を納入された会員には出版社（東信堂）から直送される手順となっています。4月中旬に学会費を納入されなかった場合は、学会事務局から個別に郵送されることになり、事務負担が増えますので、早めに学会費を納入されることをこの場を借りてお願い申し上げます。

（室井研二）

4. 社会学系コンソーシアム担当からの報告

2点報告があります。

一つ目は、2022年1月29日に評議員会が開催され、その席で次期理事の選挙が行われました。選挙の結果選ばれた理事・監事については社会学系コンソーシアムのWebページでご確認いただけます（<http://www.socconso.com/rijikanji/index.html>）。

二つ目は、同日、社会学系コンソーシアム主催のオンラインシンポジウムが開催されました。『いま「戦争」を考える—社会学・社会福祉学の視座から』というテーマで、500人に迫る多くの参加があったそうです。来年度も同様の時期にシンポジウムが企画されると思われます。社会学系コンソーシアムのウェブサイトなどに開催案内が掲載されるので、是非確認をお願いします。

（清水亮）

5. 地域社会学会賞選考委員会からの報告

2022年1月27日（木）に第3回地域社会学会賞選考委員会が開催され、本年度の地域社会学会賞の各賞の受賞候補作が以下の通り決定しました。

地域社会学会賞（個人著作部門）

- ・松井克浩『原発避難と再生への模索—「自分ごと」として考える—』東信堂、2021年3月
- 地域社会学会賞（共同研究部門） 受賞作なし

地域社会学会奨励賞（個人著作部門）

・望月美希『震災復興と生きがいの社会学—＜私的なる問題＞から捉える地域社会のこれから—』御茶の水書房、2020年11月

地域社会学会奨励賞（共同研究部門） 受賞作なし

地域社会学会奨励賞（論文部門） 受賞作なし

今後、本人に受諾の確認をしたのちに、HPで公表し、受賞の言葉の執筆を依頼し、大会での表彰を行います。講評の執筆、推薦委員の人選については、浦野委員長が作業を担当します。

（玉野和志）

6. 事務局からの報告

6-1 会費納入状況

高木財務担当理事から会費の納入状況について報告がありました。2022年2月4日時点の会員は387名（一般349名、院生26名、終身12名）で、2021年度の会費納入率は83.3%（今年度の会費納入対象者378人中315人が納入済み）でした。

今年度までの4年以上滞納者は2名おり、会員資格喪失について審議事項になります。そのほか、3年滞納者は現時点では6名で前回の理事会と同じです。なお2年未納者は13名です。

6-2 会報225号・ジャーナルNo.4の発行

庶務担当理事から1月27日に学会HP上で会報225号とジャーナルNo.4が発行されたことが報告されました。あわせて3名の会員には郵送でこれらを送付したが、手違いで送付が遅くなり、2月3日に送付したことも報告されました。

6-3 事務局業務の外部委託化について

事務局より業務の作業の軽減化を図るため、会費徴収・名簿作成の外部委託の導入にむけて本格的に作業を開始するため、今回の理事会で事務局内で外部委託化の検討を始めることの了解をいただきたいという提案がなされ、了承されました。具体的には、日本村落研究学会が2020年4月1日より、(株)アトラスのSMOOSYを使って外部委託化した経緯を参照するなどして、外部委託化の手続きを事務局で研究します。その結果導入の可能性が高い場合は、5月理事会での説明審議を経て、総会で外部委託化の方向性について了承をとることとしました。

6-4 次回の理事会の開催日程について

事務局より大会総会とは別日程で理事会を開催したいという提案を行いました。日程は5月7日（土）として、令和3年度の活動報告・決算と令和4年度予算を審議する予定です。新理事会は大会総会時に投票で選出された10名の理事によって開催し、そこで新会長を互選する予定です。また新理事会では推薦による理事の候補者10名を決める予定です。

6-5 次期事務局

松宮朝会員（愛知県立大学）に次期事務局の庶務担当理事の就任をお願いし、内諾をいただきました。今後、総会での承認を経て正式に就任されます。なお財務担当・WEB担当については、松宮会員が中心となって人選を進めてもらうこととしました。

6-6 兼業届けについて

理事の就任について所属大学に事前（就任前）に届け出を出す必要があるが、現行では就任しからの届け出となり、所属大学が受理するまで無届け期間が生じてしまうので対策を考えてほしいという意見が出されました。事務局で今後の対応について協議することとしました。

（吉野英岐）

7. 第15回（2021年度）地域社会学会賞の選考経過と受賞作の発表、講評と受賞者

の言葉

7-1 選考経過

2021年度の選考対象となった作品は、2020年6月1日から2021年5月31日までの1年間に刊行された本学会会員の著作・論文である。

第1回委員会は、オンラインにより2021年10月11日（月）に実施した。そこで、9月末日までに16名の推薦委員から推薦された作品と自薦・他薦の作品を含めて資格審査を行い、選考対象の著作を、以下のように確定した。

地域社会学会賞（個人著作部門）：2点
地域社会学会賞（共同研究部門）：3点
地域社会学会奨励賞（個人著作部門）：1点
地域社会学会奨励賞（共同研究部門）：0点
地域社会学会奨励賞（論文部門）：0点

第2回（12月12日）、第3回（1月27日）の選考委員会において対象作品について慎重に審議し、受賞作候補を決定した。その後の理事会に報告し、受賞作が以下のように決定された。

○地域社会学会賞（個人著作部門）

松井克浩『原発避難と再生への模索－「自分ごと」として考える－』東信堂、2021年3月

○地域社会学会賞（共同研究部門）

受賞作なし

○地域社会学会奨励賞（個人著作部門）

望月美希『震災復興と生きがいの社会学－〈私的なる問題〉から捉える地域社会のこれから－』御茶の水書房、2020年11月

○地域社会学会奨励賞（共同研究部門）

受賞作なし

○地域社会学会奨励賞（論文部門）

受賞作なし

7-2 今期の推薦委員

2020-21年度の推薦委員を公表いたします。記してご協力に感謝いたします。

小山弘美・武田俊輔・二階堂裕子・根本雅也・原田峻・平井太郎・丸山真央・陸麗君

7-3 授賞刊行物の講評

○地域社会学会賞（個人著作部門）

◇松井克浩『原発避難と再生への模索－「自分ごと」として考える－』東信堂、2021年3月

本書は、原発避難を経験している人々の「語り」を中心に、数に還元されない被災者一人ひとりの人生にとっての「意味」から原発事故がもたらした「被害」について考察した論考である。

避難者の生活の回復過程は、直線的なプロセスでは進まず、常に、葛藤や揺れなどを繰り返しながら「折り合い」をつけ、なんとか「生活の次元」での立て直しが図られるが、その一方で、「人生の次元」の回復はなかなか進まず、「決断疲れ」の状況にある。この背景には、不安や悩みを他者と共有することが困難で、被曝リスクや賠償の仕組みによって人間関係が分断され、「話す＝聞く」関係のな

かで自ら経験を整理・消化することができないという現実がある。つまり、これまでのような「地域の治癒力」が発揮されず、そのことが再び前を向くことを難しくしている。本書では、こうした避難者の抱える困難な現実が説得的に展開されており、終章では、このような状況を克服する道として、「地域の治癒力」に代わる「関係性の再構築」が必要であり、そのためには多様な「共有」のあり方を理解し、被災者の語りに「自分ごと」として耳を傾ける必要性が提起される。

本書では、10年にわたり同じ対象者から繰り返し話を聞くことで、時間の経過とともに変化する被災者の「意味的世界」を丹念に読み解くことが試みられている。原発避難者の存在が「見えないもの」にされがちな現在にあって、いまなお続く被害の実態や被災者の悩み・苦しみのあり様を改めて社会に問うたという点で非常に貴重な成果であると評価できる。以上から、個人著書部門の授賞に相応しい研究と判断した。

○地域社会学会奨励賞（個人著作部門）

◇望月美希『震災復興と生きがいの社会学－〈私的なる問題〉から捉える地域社会のこれから－』御茶の水書房、2020年11月

本書は、東日本大震災後の沿岸部農村におけるフィールドワークにもとづき、被災者の生きがい問題にアプローチした意欲作である。阪神淡路大震災の被災者支援のあり方に注目した似田貝香門らによる「共約不可能な〈生〉」の議論を実証的に発展させたものであり、被災者が農業によって生きがいを取り戻していく過程と個別性を有する〈生〉の復興課題にせまる。そして、「生きがいとしての農業」を支援する民間団体にみられる共同関係のあり方から地域概念を問い直し、主観的な広がりをもつ空間としての地域性(locality)に支援主体の可能性をみている。

このように、これまでの地域社会学における震災研究の蓄積を生かしつつ、神谷美恵子の生きがい論を基底にすえて被災者の〈生〉に向き合おうとする独自の被災者支援論を展開していると評価できる。他方で、次のような課題も指摘された。例えば、被災地の農業のあり方の解明を捨象しているが、専業農家地帯ではない農村部をフィールドとする限りは、地域農業のあり方や兼業先である他の産業にも目を向ける必要がある。また、被災者が生きがいを見出していくプロセスというよりも、生きがいはどう与えられたかを明らかにしているように読める。個の問題にせまるための方法論の精緻化が待たれよう。

これらの課題は本書の意義をそぐものではなく、むしろ今後の研究の深化に期待を寄せたものである。以上をもって、本書が奨励賞に値すると判断した。

7-4 受賞者の言葉

○地域社会学会賞（個人著作部門）

松井克浩（新潟大学）

この度は、拙著『原発避難と再生への模索』を地域社会学会賞に選出していただき、ありがとうございました。このような地味な著作に光をあてて下さった関係の先生方に感謝申し上げますとともに、長期間私の調査につきあって、そのつどの心情をお話し下さった対象者の皆さまに、この場を借りてあらためてお礼を述べたいと思います。

本書は、原発事故による避難を経験した（いまも経験している）人びとの「語り」を中心に構成したものです。思いもよらない事故に遭遇して避難を強いられることになった人びとは、限られた選択肢の中から、迷い、選び、後悔する……という過程を繰り返してきました。対象者の個別的な思考と選択の軌跡を描き出すことにより、一人ひとりの人生にとって今回の原発事故がもつ「意味」を探り、その被害の特徴や被災者を方向づける社会的制約条件の解明を目指す、というのが本書で採用した方法です。

私がこれまで携わってきた、自然災害の被災者・被災コミュニティを対象とした研究では、被災者の復興・再生を考える際に「地域」を重要なベースとして設定できました。しかし、原発避難のケースはまったく勝手が違います。地域を強調しすぎるのが新たな分断をつくり出す一方

で、地域から切り離されることは避難者の回復を明らかに遅らせています。避難者は「宙ぶり」にされたまま、長期間理不尽な状況と向き合ってきました。

本書では、この何とも厄介な「地域」の再検討を課題の一つとして掲げたのですが、理論的に深めることができず、悔いを残したまま刊行せざるを得ませんでした。それだけに、今回の受賞は大きな驚きでした。「語り」の記録にとどまっている私に対して、地域社会学の蓄積をふまえてしっかり取り組みなさい、という叱咤激励をいただいたのだと受けとめています。あとどれくらい前線でふんばれるか心許ないですが、今回の励ましを胸に研究を続けて参ります。

○地域社会学会奨励賞（個人著作部門）

望月美希（静岡大学）

この度は、拙著『震災復興と生きがいの社会学——〈私的なる問題〉から捉える地域社会のこれから』について、地域社会学会奨励賞という荣誉ある賞をいただき光栄に存じます。本書は、東日本大震災により津波被害を受けた宮城県沿岸部農村の約7年間（2012年～2018年）のフィールドワークをもとに執筆したものです。東日本大震災から11年を迎えますが、今一度被災地の復興に関心を寄せていただいたことは大きな励みとなりました。

本書では、一人ひとりの被災者の「生きがい」の喪失と取り戻しという点から、被災地の復興を捉えてきました。この「生きがい」というテーマは、被災地で出会った方々の語りから着想を得たものですが、ハンセン病療養所で患者たちと向き合ってきた神谷美恵子氏の『生きがいについて』、そして地域社会学会における阪神淡路大震災以降の多くの研究からもヒントをいただきました。こうした先人の助けによって、平易な日本語でありそれゆえに学問的な概念として扱いくわかった「生きがい」という言葉を、社会学的な議論の俎上に乗せることができたと思っています。

昨今、国内で多発する自然災害や世界各地で起きている戦災においては、多くの人々が避難生活や移転を強いられ、元の暮らしから引き剥がされてしまう状況が窺えます。今後は、本書で明らかにしてきた東日本大震災後の人々の営みや支援実践、そこで明らかとなった社会的課題について、国際的にも共有し、議論していけるよう尽力したいと思っています。

最後になりますが、調査にご協力いただきました宮城県岩沼市、亘理町で出会った皆様に感謝致します。津波により大きな被害を受けながらも、再び土地を耕し農作業に励み、日常を取り戻そうしてきた皆さんの姿に私自身も勇気づけられました。そして本書の出版にあたっては御茶の水書房の小堺様に大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

8. 事務局からのお願いとお知らせ

8-1 理事選挙の投票のお願い

2022～23年度の理事選挙の投票をお願いします。会員にお送りした郵送物の中に投票用紙が封入されていますので、ご記入の上、4月15日（金）までに投函してください。

8-2 2022年度の会費納入のお願い

2022年度の会費納入について、よろしくをお願いします。今回の名簿と理事選挙関連資料とともに払い込み用紙が同封されていますので、郵便局の窓口でお支払いください。口座番号（00150-2-790728）、加入者名（地域社会学会）、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2021年度会費」を明記の上、会費（一般会員6,500円、院生会員5,000円）のご送金をお願いします。2022年度分の会費の振込確認ができた会員には、『地域社会学会年報』第34集をお送りします。発送時期は5月中旬以降を予定しております。

8-3 会員名簿の作成と送付

2022年4月1日付けで、全会員に対して地域社会学会の会員名簿（2022年1月現在）を発送いたしました。届いていない方がおられましたら、事務局までご連絡ください。

8-4 新年度に伴う所属先・住所・メールアドレス等の変更のお届けのお願い

新年度になり、所属先や住所の変更などありましたら、事務局までご連絡下さい。その際、お手数をおかけしますが、「所属名」「所属先住所」「所属先電話番号」「自宅住所」「自宅電話番号」「メールアドレス」「送付先（所属 or 自宅）」に関して、変更がある箇所をお伝え下さい。

なお、冊子体名簿の作成過程で調査葉書を送付・回収いたしました。それとは関係なく所属の変更がありましたら別途ご連絡ください。

8-5 会員の研究成果情報の提供のお願い

引き続き、2020年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 WEB サイトから MS ワード版がダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメール（あるいはファックス）でお送りください。ご協力よろしく申し上げます。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いいたします。

（高木竜輔・吉野英岐）

9. 会員異動

略

10. 会員の研究成果情報（2020年～2021年）

情報提供なし

11. 理事会のご案内

第5回理事会

日時 5月7日（土）10：00～12：00 オンライン